



2007年10月期決算及び 「2008 中期経営計画」説明会資料

2008年1月10日

株式会社 ミロク
(証券コード 7983)

会社概略

- 社 名 株式会社ミロク(大証2部上場)
- 代 表 者 代表取締役社長 弥勒 美彦
- 創業/設立 1893年2月/1946年7月(2003年5月 持株会社体制移行)
- 資 本 金 863百万円(発行済株式総数 15,027千株 2006年10月31日現在)
- 連結業績(2007年10月期)
 - 売上高 15,231百万円
 - 経常利益 980百万円
 - 当期利益 712百万円
- 連結の範囲 連結子会社7社 持分法適用関連会社5社
- 事業内容 各種猟銃の製造販売
工作機械・ツール(工具)などの製造販売
自動車用ハンドルの製造販売など

目次

- I. 2007年10月期連結決算 …… p.3
- II. 2008年10月期連結業績予想 …… p.13
- III. 「2008 中期経営計画」 …… p.18

I .2007年10月期連結決算

当期の概況・当期の重点施策

■当期の概況（連結）

- **売上高は前年並みとなったが、経常利益は大幅に減少**
 - ✓ 猟銃事業の生産積み残しから、売上高・営業利益が減少。
工作機械事業、自動車関連事業は堅調に推移したが、補い切れず。

■当期の重点施策

- 猟銃部門
 - : **改善活動（MPI-30活動）の強力推進**
 - : **2007年度新製品のスムーズな立ち上げ**
- 工作機械部門
 - : ツールと定盤の**能力増強計画**の遂行
 - : 販売促進強化による**受注量の拡大**
- 自動車関連部門: **競争力の強化**
 - TPS (Toyota Production System) 導入とムダの排除
 - 新製品開発力の強化

連結損益(要約)

(百万円、%)

	06/10期	07/10期	
	(06年度)	(07年度)	前年比
売上高	15,067	15,231	101.1
猟銃事業	6,823	6,337	92.9
工作機械事業	3,824	4,174	109.1
自動車関連事業	4,437	4,769	107.5
売上総利益	2,782	2,325	83.6
営業利益	1,123	686	61.1
経常利益	1,398	980	69.4
当期純利益	874	712	81.5
EPS(1株当たり当期純利益)	60.04円	48.93円	△11.11円

事業別セグメント①：猟銃事業

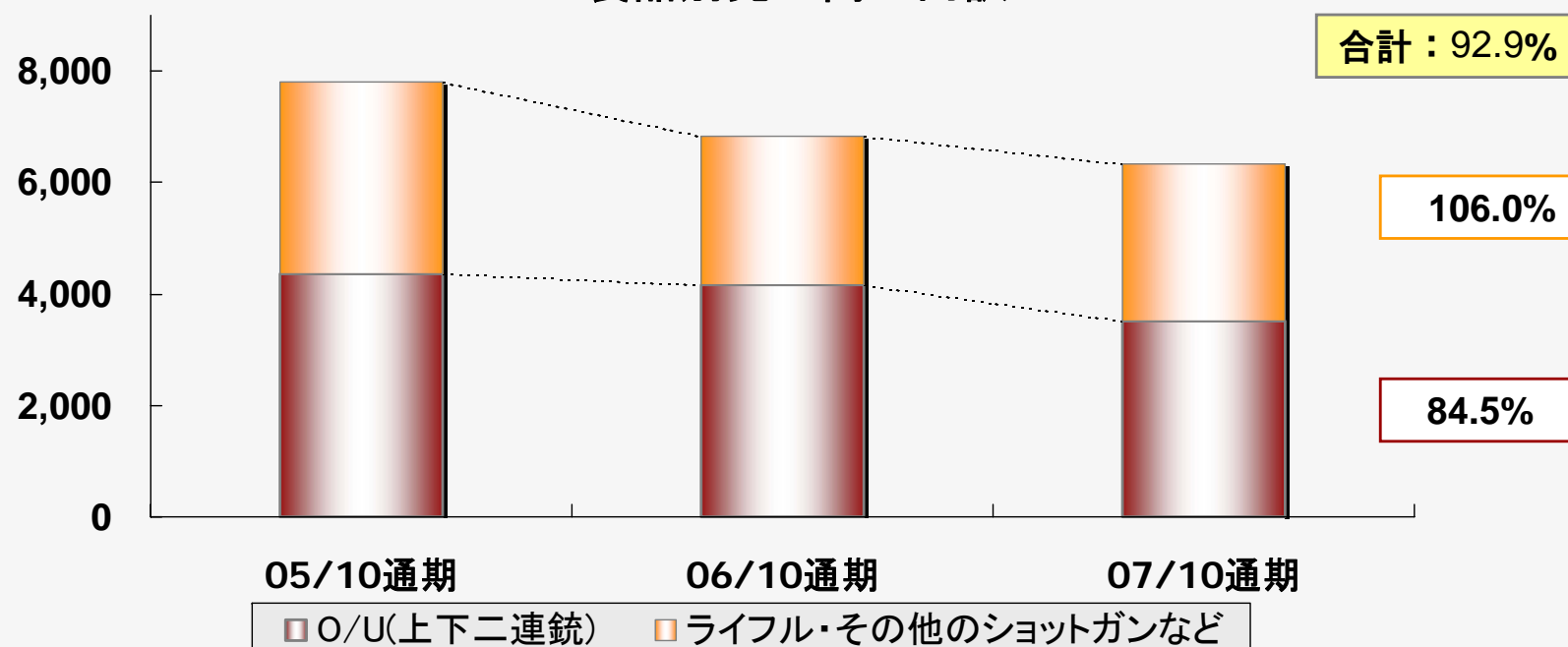
(百万円)

	06/10期	07/10期	前年比
	通期	通期	
売上高	6,823	6,337	92.9
営業利益	439	△6	—

(百万円)

製品別売上高の内訳

前年比



事業別セグメント②: 工作機械事業

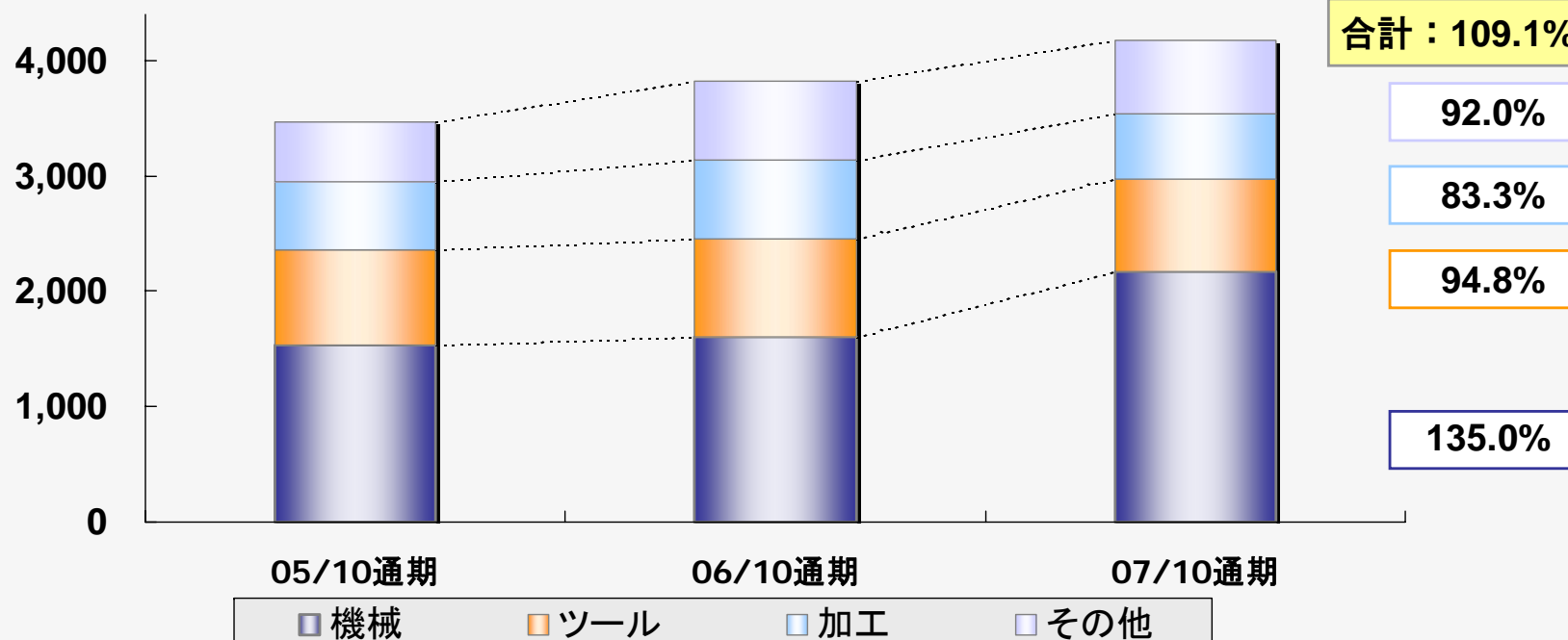
(百万円)

	06/10期	07/10期	
	通期	通期	前年比
売上高	3,824	4,174	109.1
営業利益	871	890	102.2

(百万円)

部門別売上高の内訳

前年比



事業別セグメント③:自動車関連事業

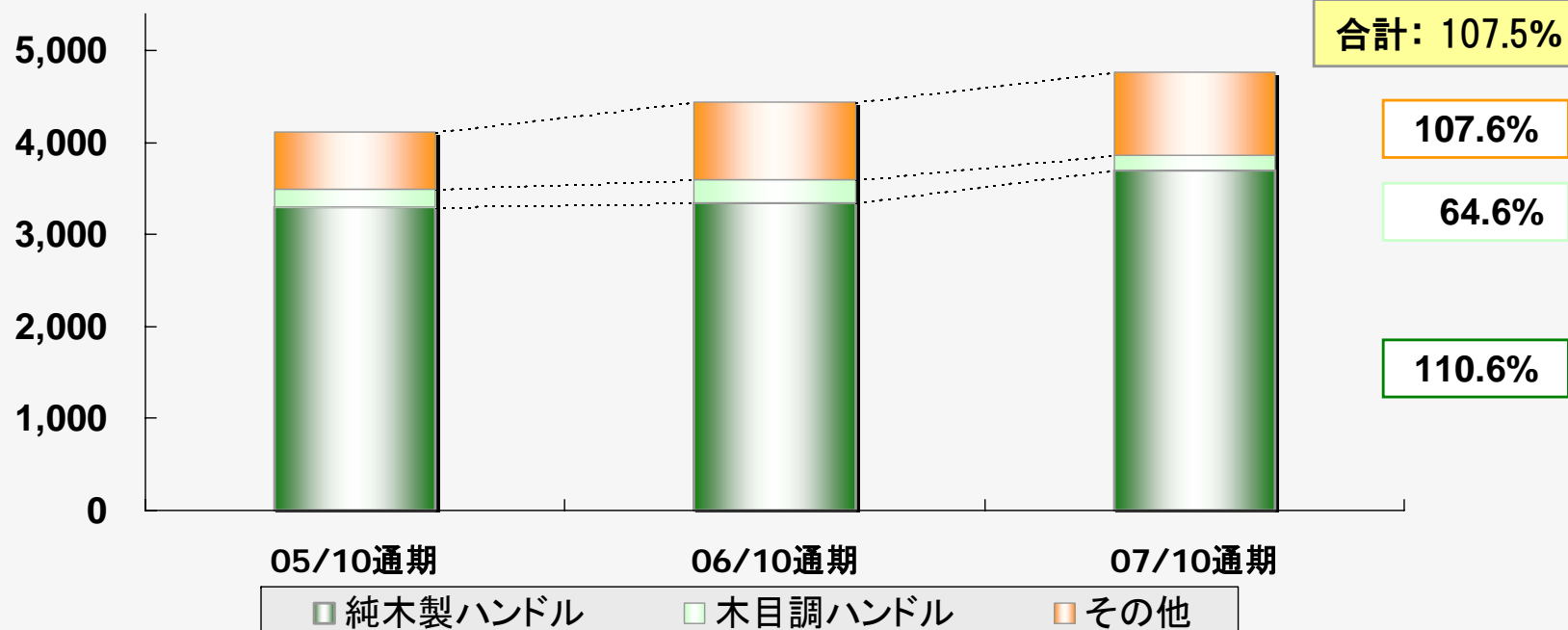
(百万円)

	06/10期	07/10期	
	通期	通期	前年比
売上高	4,437	4,769	107.5
営業利益	26	18	70.3

(百万円)

製品別売上高の内訳

前年比



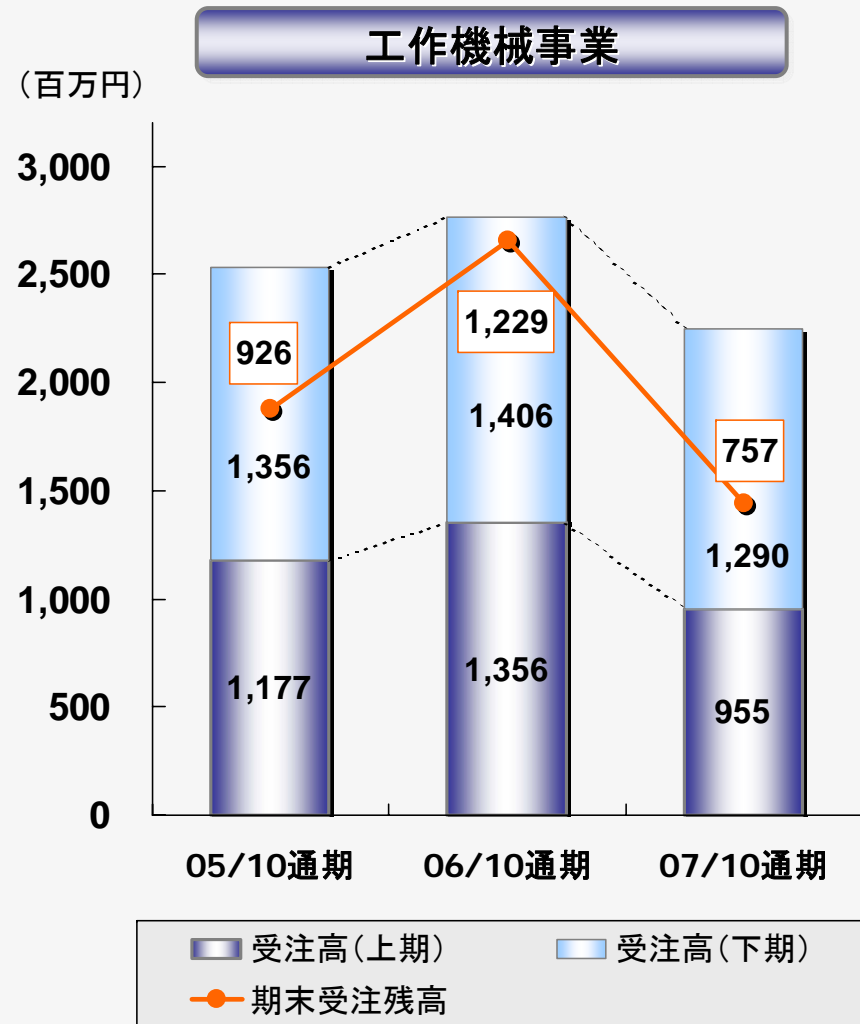
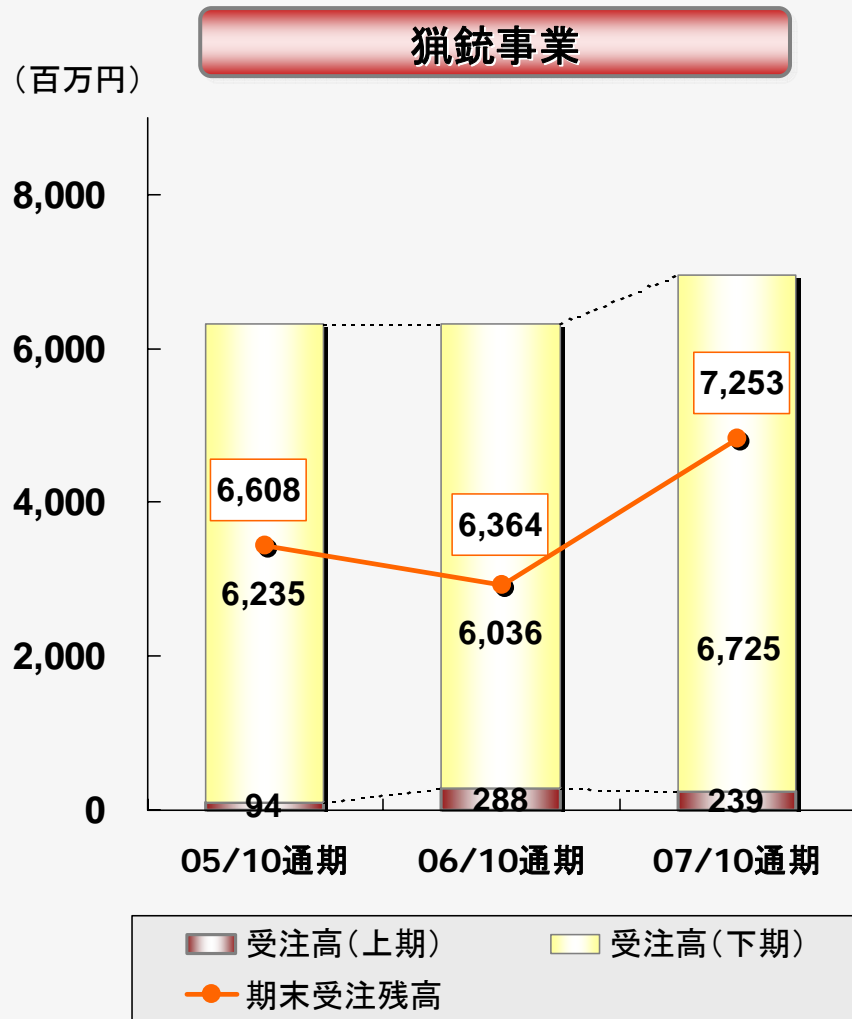
営業外損益の状況

(百万円)

	06/10期	07/10期	
	(06年度)	(07年度)	前年比
営業外収益	317	348	110.0
受取利息・配当金	23	26	113.0
持分法投資利益	218	250	114.7
その他	76	72	94.7
営業外費用	42	54	128.4
支払利息	33	40	121.2
その他	9	14	155.6
営業外損益	275	294	106.9

持分法適用関連会社： ミロクテクノウッド ミロク興産 特殊製鋼所 ニッサンミロク ミロク工芸 以上5社

受注状況(猟銃事業・工作機械事業)



比較連結貸借対照表

(百万円)

	07/10末			07/10末	
		06/10末比較			06/10末比較
流動資産	6,661	269	流動負債	5,471	△61
現金及び預金	976	50	支払手形・買掛金	2,303	53
受取手形・売掛金	2,877	△58	短期借入金	1,800	0
たな卸資産	2,434	230	1年以内返済予定長借	300	0
有形固定資産	5,509	593	固定負債	2,674	341
無形固定資産	74	△16	社債	200	0
のれん	0	△7	長期借入金	1,200	400
投資その他の資産	3,791	34	純資産	7,890	601
投資有価証券	2,586	△45	株主資本	7,486	576
			評価・換算差額等	397	28
			少数株主持分	7	△3
資産合計	16,037	880	負債、純資産合計	16,037	880

キャッシュフロー

(百万円)

	06/10期 (通期)	07/10期 (通期)
営業キャッシュフロー	1,224	570
税金等調整前当期純利益	1,385	1,058
減価償却費	557	622
売上債権の増減額(▲:増加額)	▲191	58
たな卸資産の増減額(〃)	131	▲230
仕入債務の増減額(▲:減少額)	148	55
その他	▲806	▲993
投資キャッシュフロー	▲1,070	▲742
有形固定資産の取得(支出)	▲1,127	▲1,063
有形固定資産の売却(収入)	0	0
その他	57	321
財務キャッシュフロー	▲165	223
換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(▲;減少額)	▲11	50
現金及び現金同等物の期末残高	925	976

Ⅱ .2008年10月期連結業績予想

業績予想(要約)

(百万円,%)

	07/10通期	08/10通期	前年比
	(実績)	(予想)	
売上高	15,231	16,300	107.0
営業利益	686	1,060	154.5
経常利益	980	1,300	132.7
当期純利益	712	860	120.8
設備投資	1,210	670	55.4
減価償却費	622	820	131.8

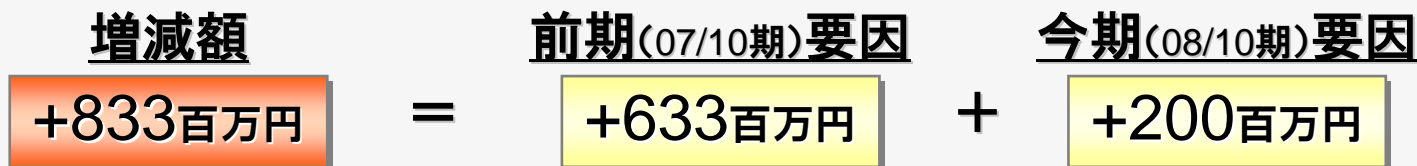
事業別セグメントの業績予想

(百万円、%)

		07/10期実績		08/10期予想			
		上期	通期	上期		通期	
					前年比		前年比
猟銃事業	売上高	3,164	6,337	3,635	114.9	7,170	113.1
	営業利益	90	△6	125	138.9	280	—
工作機械事業	売上高	2,122	4,174	2,200	103.7	4,300	103.0
	営業利益	534	890	510	95.5	970	109.0
自動車関連事業	売上高	2,401	4,769	2,350	97.9	4,800	100.7
	営業利益	11	18	15	136.4	30	166.7
連結	売上高	7,633	15,231	8,200	107.4	16,300	107.0
	営業利益	536	686	540	100.7	1,060	154.5

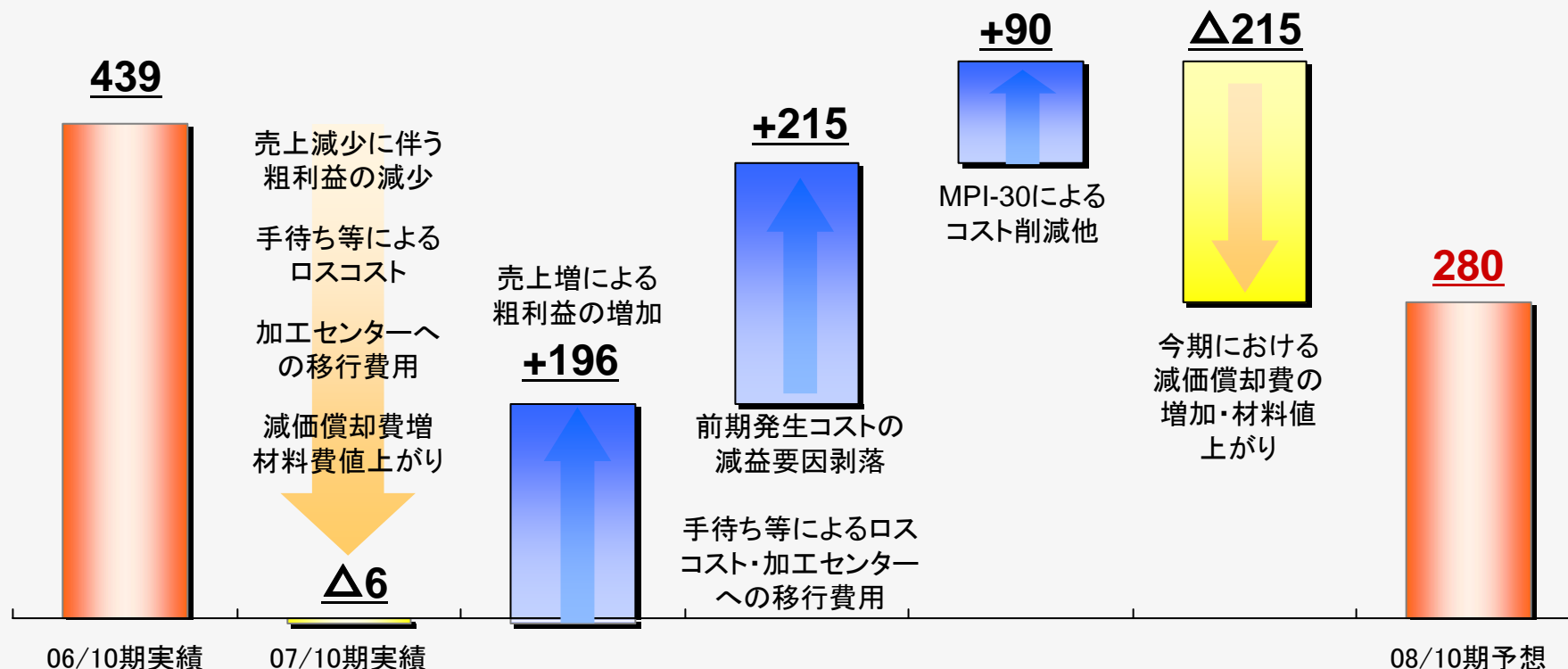
(ご参考) 猟銃事業: 2008/10通期予想について

07/10期実績に対する要因分解①: 売上高+833百万円



前期計画持越しに伴う増加 新規受注・売上構成変化等による増加

07/10期実績に対する要因分解②: 営業利益+286百万円



営業外損益に関する予想

(百万円)

	07/10期実績		08/10期予想	
	上期	通期	上期	通期
営業外収益	208	348	170	300
内、持分法投資利益	158	250	140	230
営業外費用	24	54	30	60
営業外損益	184	294	140	240

持分法適用関連会社： ミロクテクノウッド ミロク興産 特殊製鋼所 ニッサンミロク ミロク工芸 以上5社

Ⅲ.「2008 中期経営計画」

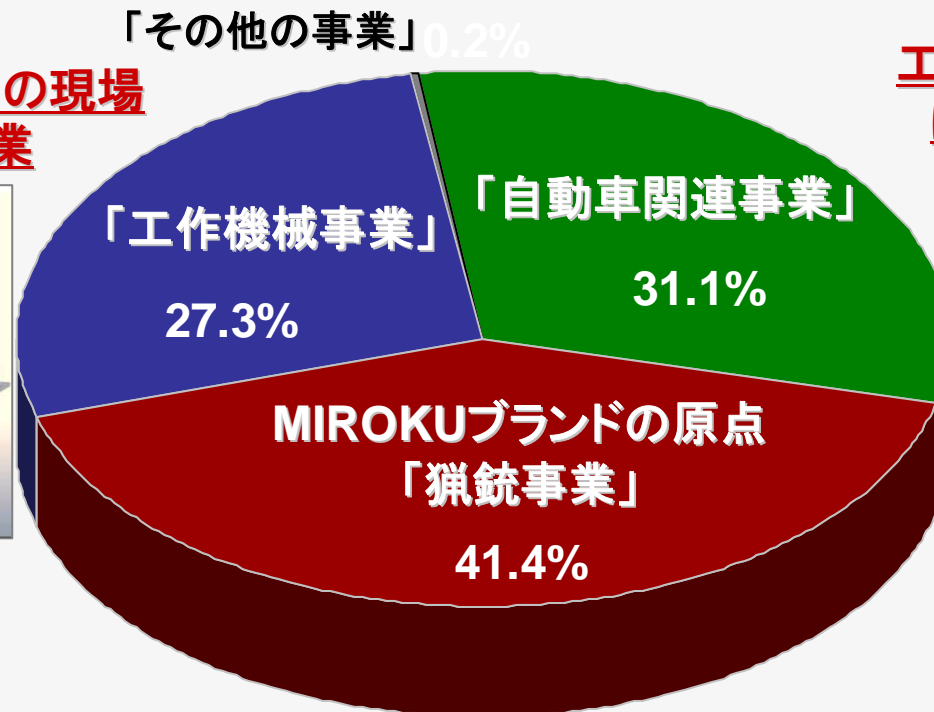
当社グループの事業ポートフォリオ

連結売上高(07/10期):15,231百万円

世界屈指の猟銃づくりの現場
から生まれた事業



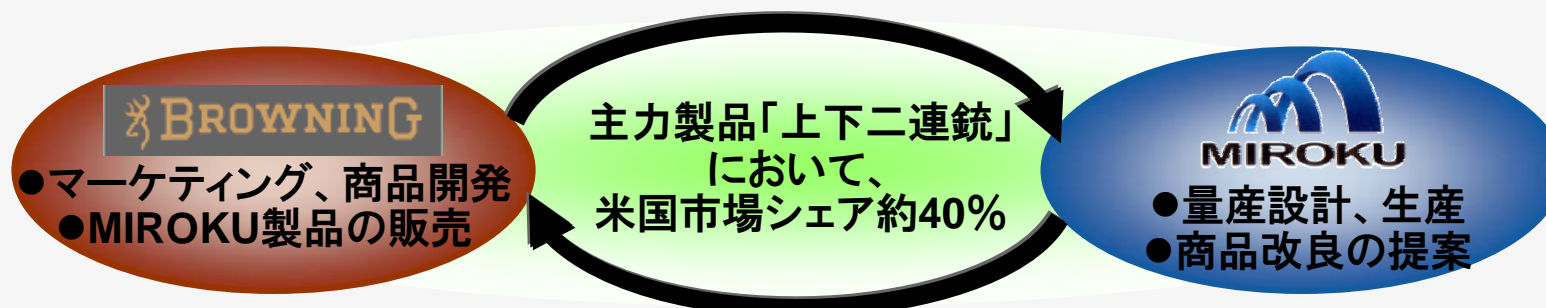
●銃身加工用深孔加工機
「ガンドリルマシン」



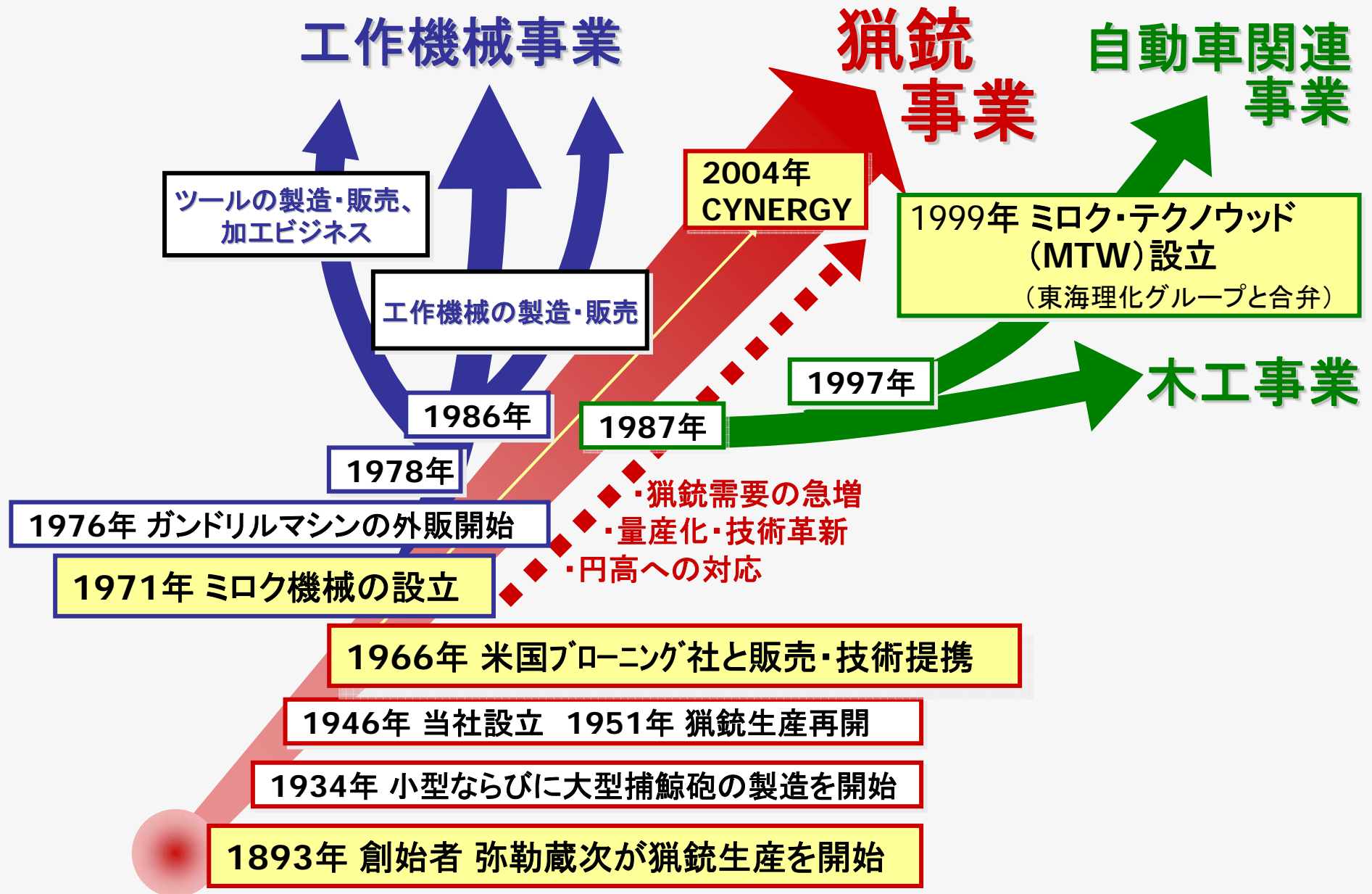
工業製品の代表「自動車」
に活かされる“匠の技”



「ブローニング」ブランドによるグローバル展開



事業領域の拡張の軌跡



事業領域拡張の原点：猟銃づくりで培われた要素技術



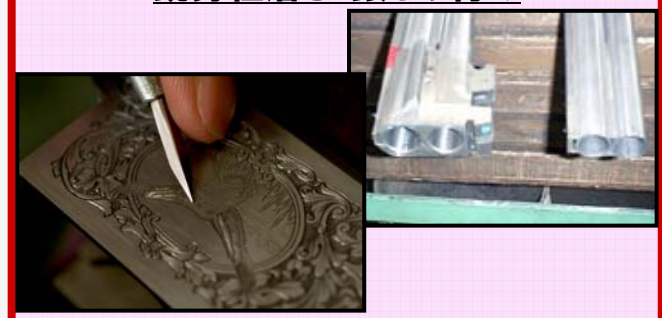
木材加工技術

堅牢な銃床を作る目止め・磨き



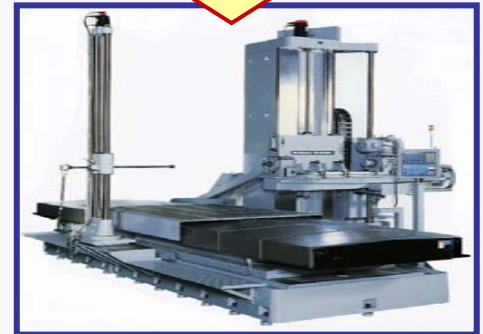
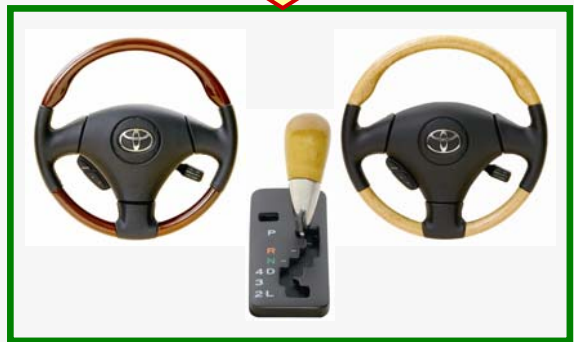
金属接合技術 金属の精密加工技術 彫刻技術

銃身粗磨き・銀ろう付け



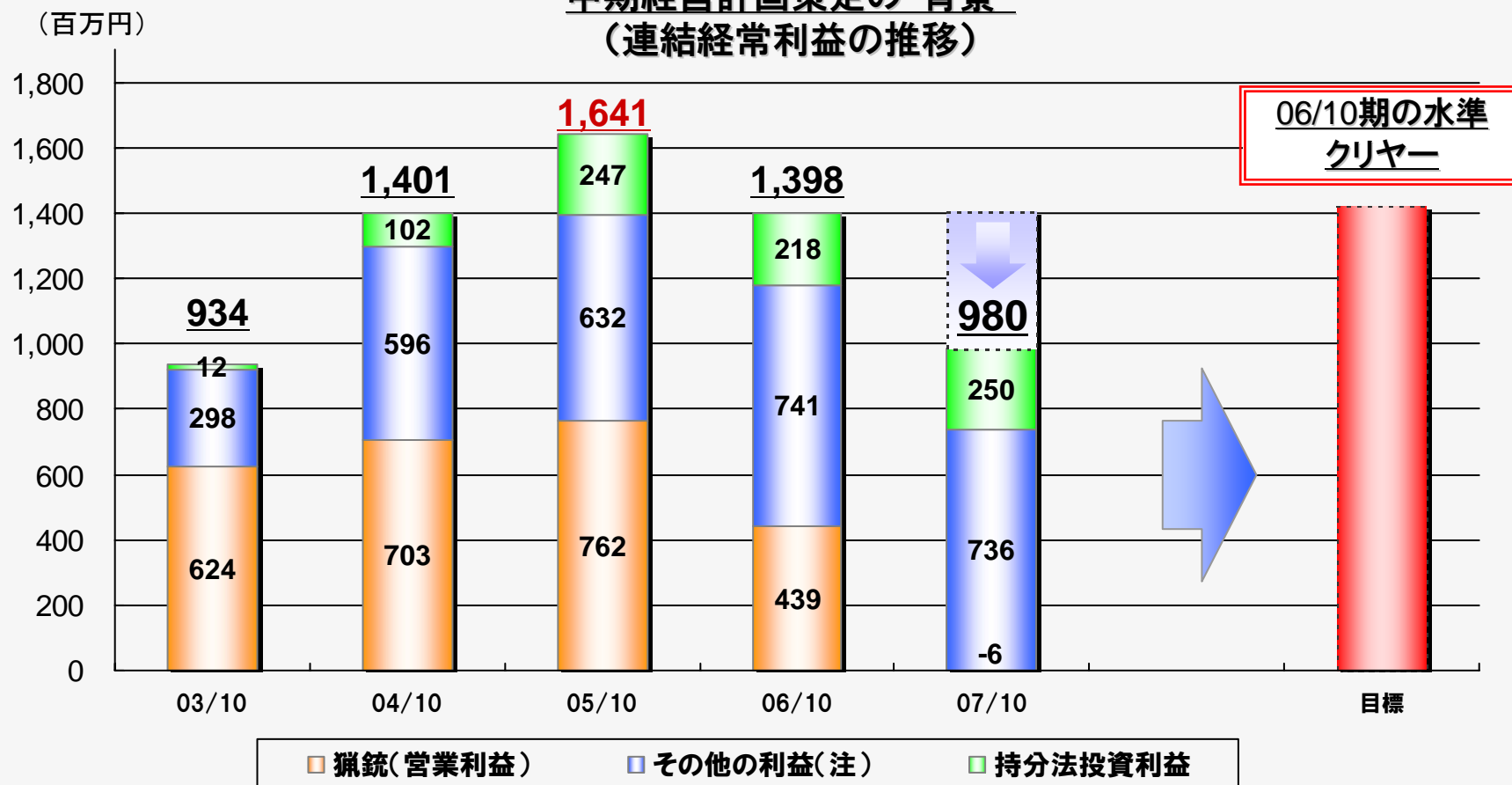
深孔加工技術

銃身の孔あけ



「2008 中期経営計画」策定の“背景”と“ねらい”

中期経営計画策定の“背景” (連結経常利益の推移)



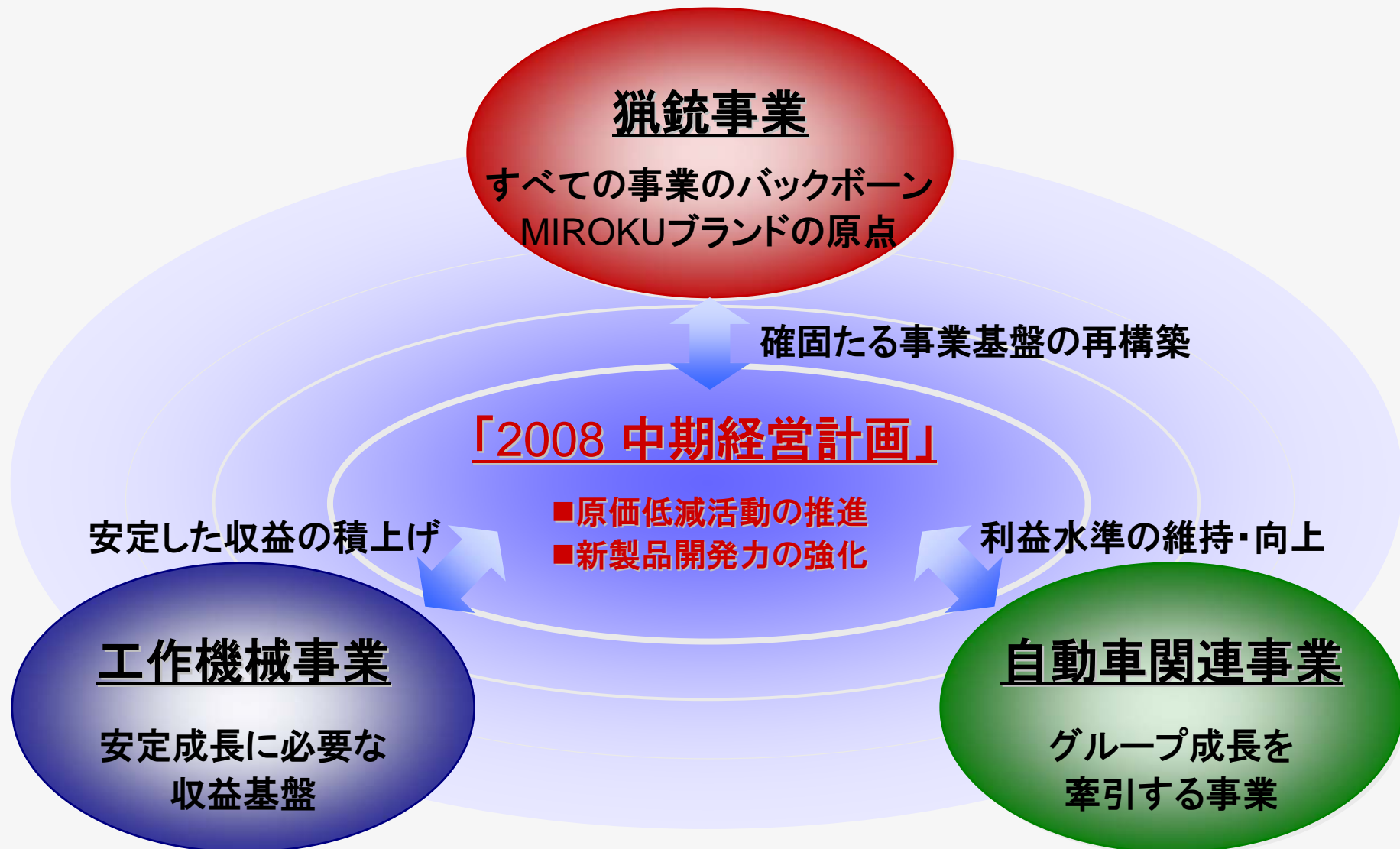
中期経営計画策定の“ねらい”

成長ステージに回帰するための“第一歩”を着実に踏み出す

(注) その他の利益 = 獵銃事業を除く営業利益 ± 持分法投資利益を除く営業外損益

「2008 中期経営計画」基本戦略

中核3事業の“強み”の発揮により、着実なる利益回復を果たす



連結収益目標

(百万円)

	07/10期	08/10期	09/10期	2010/10期	07/10期比
	実績	予想	予想	目標	
売上高	15,231	16,300	16,530	17,230	+1,999
猟銃事業	6,337	7,170	7,000	7,200	+863
工作機械事業	4,174	4,300	4,500	4,700	+526
自動車関連事業	4,769	4,800	5,000	5,300	+531
営業利益	686	1,060	1,140	1,210	+524
猟銃事業	△6	280	330	380	+386
工作機械事業	890	970	1,000	1,020	+130
自動車関連事業	18	30	30	30	+12
共通	△210	△215	△215	△215	△5
経常利益	980	1,300	1,370	1,440	+460
持分法投資利益	250	230	230	230	△20
当期純利益	712	860	900	940	+228

経常利益の予想・目標に関して

2008/10期予想

1,300百万円
前期比+320百万円
(+32.7%)

■猟銃事業の営業利益の増加 +286百万円

- ✓前年度計画持ち越しに伴う生産・販売の増加による影響
- ✓コスト削減の対象エリア拡大(グループ会社)

2009/10期予想

1,370百万円
前期比+70百万円
(+5.4%)

■猟銃事業の営業利益の増加 +50百万円

- ✓売上減少による影響をコスト削減により補う

■工作機械事業の営業利益の増加 +30百万円

2010/10期予想

1,440百万円
前期比+70百万円
(+5.1%)

■猟銃事業の営業利益の増加 +50百万円

- ✓販売数量の増加等による利益の押し上げ

■工作機械事業における営業利益の積上げ +20百万円

猟銃事業の重点施策

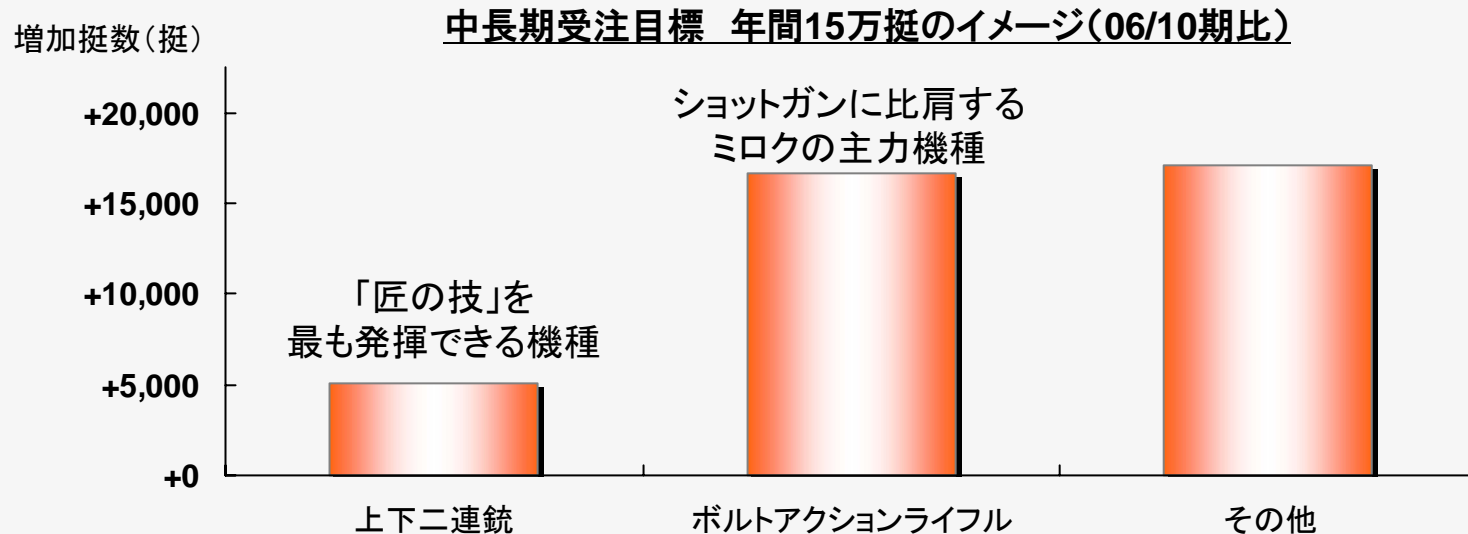
施策1

- MPI-30活動(*)の強力推進
⇒グループあがての原価低減活動の積極推進

(*) : Miroku Production Innovation (ミロク生産革新活動) のことで、MPI-30活動では、3年間で生産コストを30%削減もしくは30%の付加価値アップを目標に取り組んでいます。

施策2

- 製品開発・製品作りの積極推進
⇒商品ラインナップの拡充・魅力の向上



「最大顧客である米国ブローニング社のビジネスパートナーとしての確固たる地位の維持・強化」
を戦略の基本として、事業の発展を図る。

工作機械事業の重点施策

機械部門

- 製造及び設計部門の効率化
- ガンドリルマシンの廉価な汎用機開発の推進

✓自動車産業の海外進出に対応するため、廉価な汎用機種に力点を置く。
✓北米はもとより、東南アジア、中国へと販路を拡大。

ツール部門

- 需要獲得に向けた新製品開発の積極化
⇒生産性が高い新工場有能力発揮

✓スターカッター社(デトロイト)と協力し、『ミロクスタードリル』を開発
⇒製品寿命の向上、切削時間の短縮、加工時の折損の減少等品質アップを実現
✓新ツール工場では作業スペースの入れ替え等により生産性向上を実現。
今後は、更なる作業効率と稼働率の改善を推進。

加工部門

- 営業体制の強化
⇒営業エリアを拡張、新たな顧客の獲得

自動車関連事業の重点施策

施策1

- 魅力ある新商品の開発・提案
⇒純木製ハンドルに続く、次世代の収益基盤を狙う

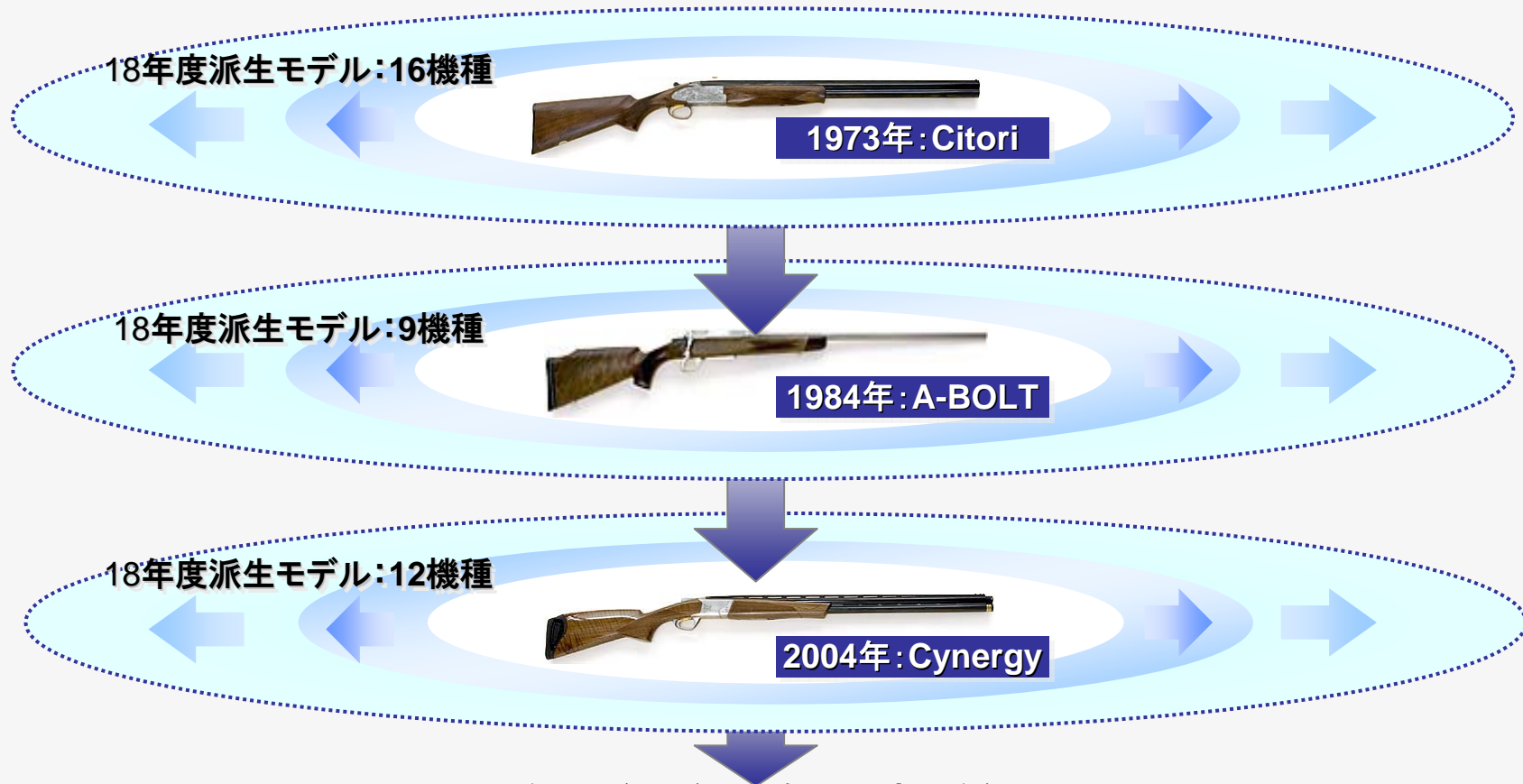


施策2

- 生産効率の継続的な改善
⇒自工程完結、トヨタ生産方式等の推進

猟銃事業：新機種の開発・派生モデルの開発

主力機種と派生モデル展開の軌跡と現在の取組み



現在の取組み(2007年11月末現在)

開発中の「新モデル」：5件 開発中の「派生モデル」：57件



開発中の「新モデル」：ボルトアクションライフル「X-BOLT」

猟銃事業：銃部品における機械加工工程の集約化

生産体制の充実

2007年9月より新設「部品加工センター」の一部稼動開始

工 程 の
集 約 化



部品加工センター(高知テクノパーク)

コ ス ト
削 減

- 外注部品の内製化
- 生産効率の向上によるコスト削減
- ノウハウの蓄積

今後も、工程の移設等、効率化を図り原価低減を目指す。

工作機械事業：ツール新工場の最大活用

生産の効率化

2006年12月にツール新工場(増改築)完成

作業環境
の改善



品質向上

- スペースの有効利用による品質向上
- 新工法による品質向上
(一部設備を導入)

早期に新製品の立ち上げを図り、受注の拡大を目指す。

創造・改善・改革への挑戦



（ご注意）

本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。